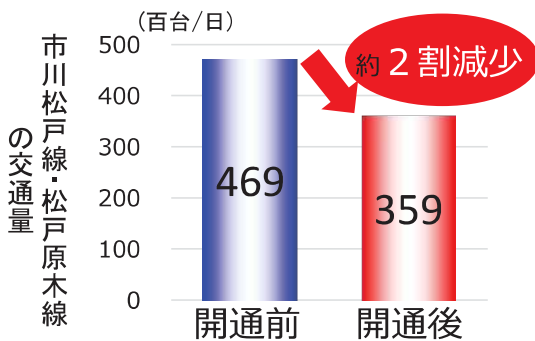


交通安全性の向上(交差点・生活道路)

- 外環道(国道298号)に並行する主要な道路(市川松戸線・松戸原木線)の交通事故が約3割減少し、自動車だけでなく、歩行者や自転車の安全性も向上。
- アンケート結果では、外環道開通後、「生活道路に入り込む車両の減少等により、生活道路の安全性向上など、環境が改善されている」と思うが約7割を占める。

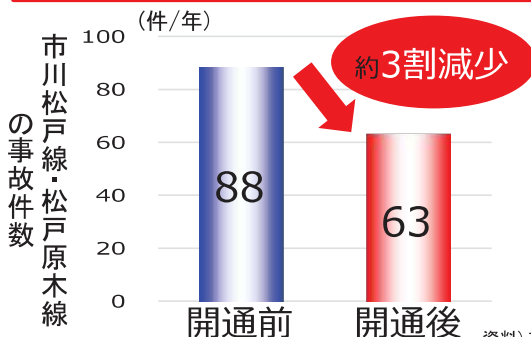
地域における交通安全性の向上

外環道(国道298号)に並行する 県道では交通量が約2割減少

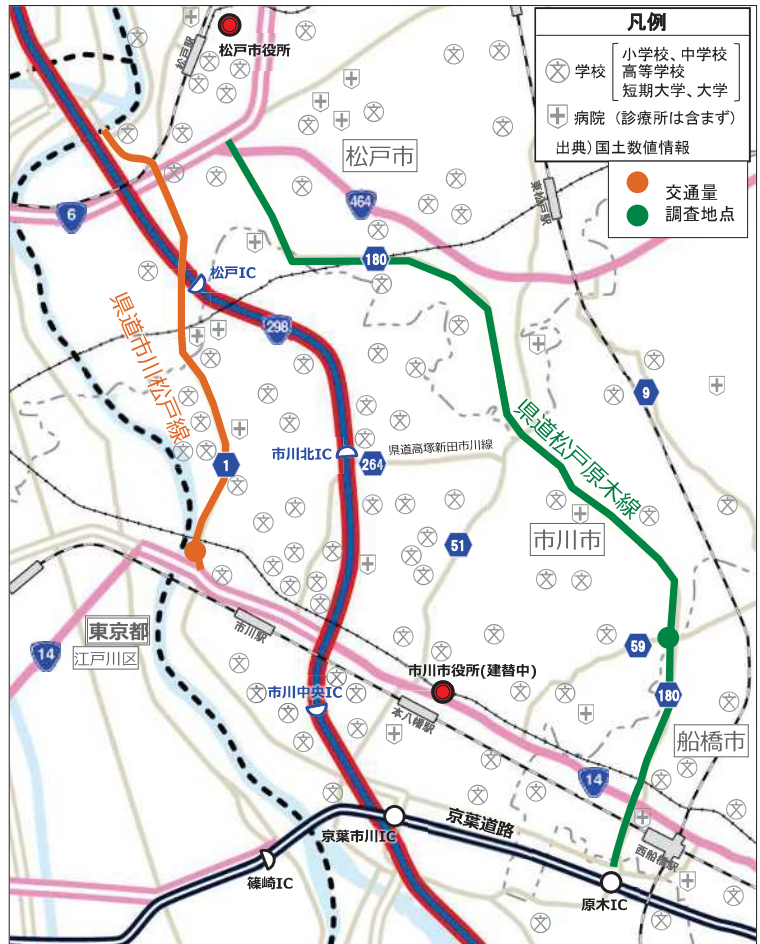


資料) 交通量調査(24h)
 開通前 H29.4.26(水), 6.29(木), 9.26(火), H30.5.23(水)の平均値
 開通後 H30.6.5(火), 7.3(火), 9.6(木), R元.6.4(火)の平均値

県道の交通事故は約3割減少

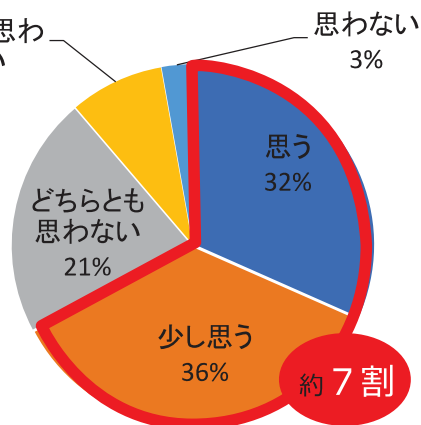


資料) 千葉県警察本部 開通前: H29.6~H30.5 開通後: H30.6~R元.5



市民アンケート結果(生活道路の安全性向上)

「県道等の混雑を避けて生活道路に入り込む車両の減少等により、生活道路の安全性向上など、環境が改善されている」と思うが約7割を占める



出典) 市川市・松戸市居住者を対象としたWebアンケート調査 (R元.6) (n=427)

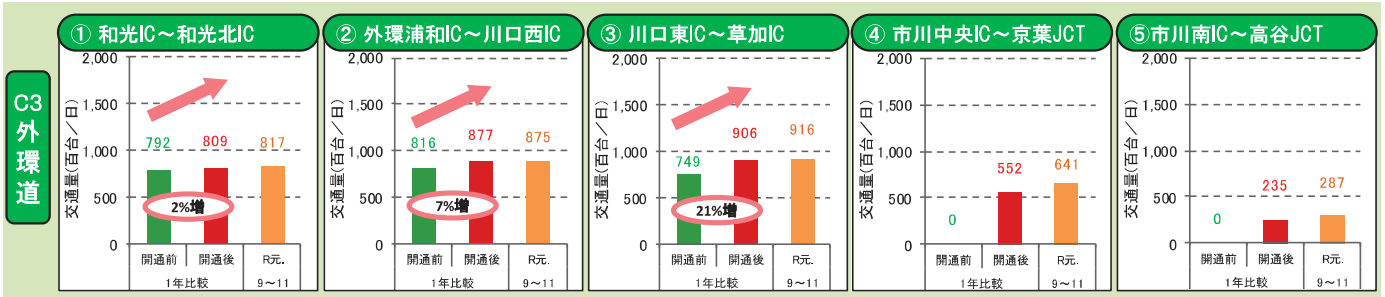
市民の声(交通安全関連)

- ・小学生や園児送迎自転車が、多く、幅が狭い道を徐行して運転していたが、国道298号を通ることでストレスなく走行ができ、時間も短縮できた。
出典) 沿線住民WEBアンケート調査 (H31.2)
- ・自転車で通学していますが、車が減り、またトラック等の大型車も減って、自転車が通りやすくなりました。ヒヤリ・ハットが起こる回数も減っています。
出典) 大学ヒアリング調査 (R元.7)

外環道及び周辺道路の交通量（高速道路）

【参考】

- [C3]外環道(④市川中央IC～京葉JCT)の交通量は約5.5万台。
- 首都高速[C2]中央環状線の交通量が東側区間で約1割程度減少。



使用データ：車両感知器交通量(NEXCO東日本、首都高速)
 開通前：H29.6.1(木)～H30.5.31(木) 開通後：H30.6.3(日)～R元.5.31(金)
 R元.9～11：R元.9.1(日)～R元.11.30(土)

凡例
 開通後に増加した断面 (Pink bar)
 開通後に減少した断面 (Blue bar)

[C2]中央環状線 東側区間

